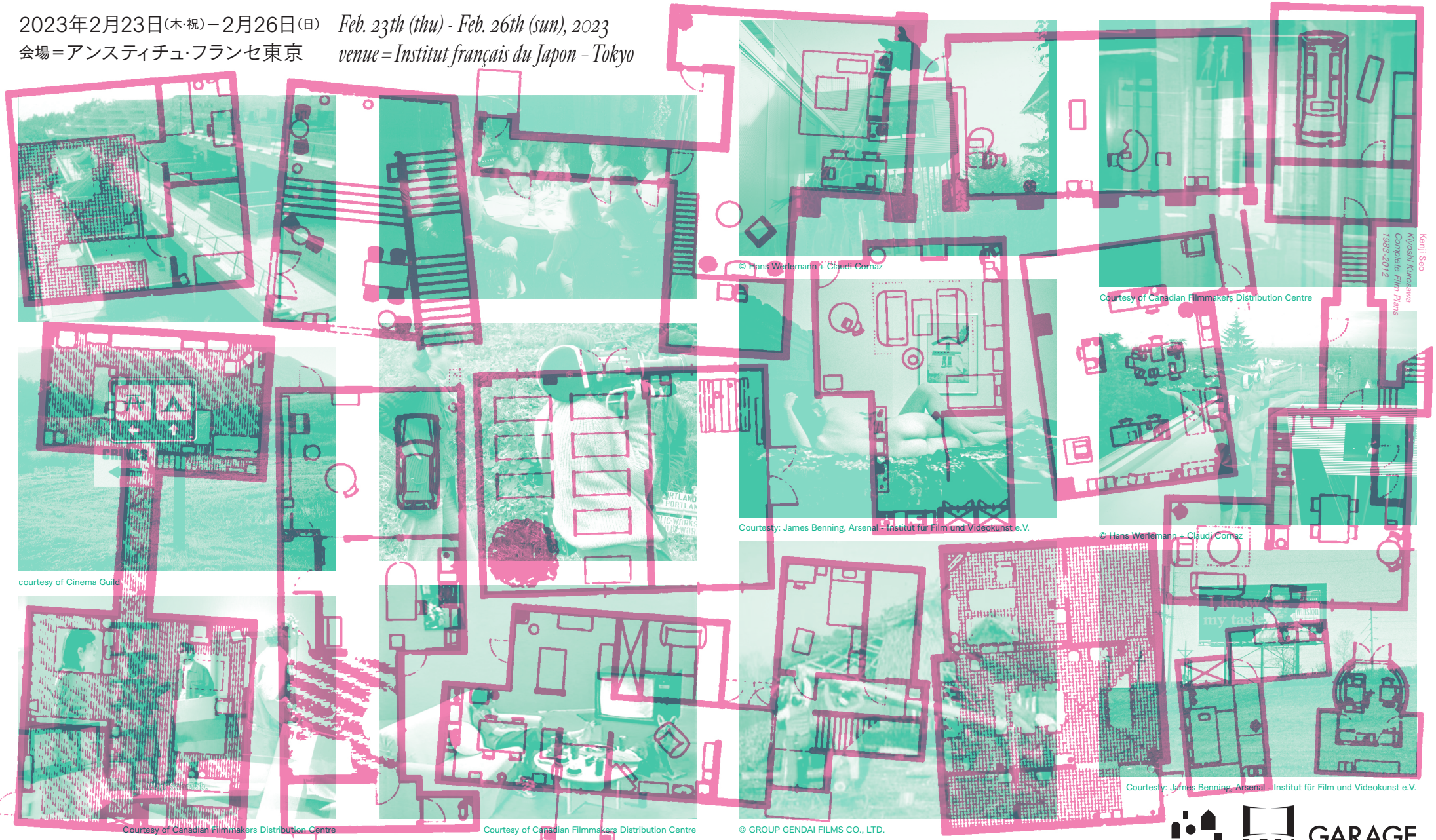
建築映画館2023 *Architecture Film Festival 2023*

2023年2月23日(木·祝)－2月26日(日)
会場＝アンスティチュ·フランセ東京

Feb. 23th (thu) - Feb. 26th (sun), 2023
venue = Institut français du Japon – Tokyo



主催＝建築映画館実行委員会　助成＝公益財団法人 窓研究所　協力＝国立映画アーカイブ、合同会社ガラージュ

窓研究所 WINDOW RESEARCH INSTITUTE　NFAJ 国立映画アーカイブ National Film Archive of Japan　GARAGE ガラージュ

建築映画館2023 Architecture Film Festival 2023

建築映画館は、建築をテーマに映画を上映する映画祭です。製作国、時代、ジャンルに縛られず、建築に関連する映画を選定し、上映を行います。今年度は「構造」「建築と人間」「図面」「アーカイブ」「都市」の5つのテーマに分けて作品を紹介します。また、上映に併せて、映画・建築双方の分野からゲストを招きトークショーを開催します。映画館という建築物に集うことで、映画のなかの建築をフレームの外へ拡張させ、実際の都市・建築の議論へとフィードバックすることを目指します。

タイムテーブル

2/23 木・祝

14:40-16:10
オープニングイベント
「現代建築映像にまつわる対話」

16:50-18:20 構造
11 x 14　1977年|81分

19:00-20:00 構造
〈短編セレクションA〉
マイケル・スノウ作品集

WVLNT
(Wavelength For Those Who Don't Have The Time)
2003年|15分

SSHTOORRTY
2005年|20分

The Living Room
2000年|21分

※トークショーは、上映終了後約70分間の開催を予定しています。詳細は決定次第、WebサイトとSNSにてお知らせいたします。

2/24 金

14:00-15:00 建築と人間
Koolhaas Houselife
2017年|58分

15:40-17:10 都市
プロパティ Property
1979年|88分|本邦初公開

17:50-18:50 ＋トーク 建築と人間
〈短編セレクションB〉
近現代建築と運動

サイコロ城の秘密
Les Mystères du Château de Dé
1992年|12分

今日の建築
Architecture d'aujourd'hui
1930年|10分

Silent Witness
1992年|12分|本邦初公開

Renee's Sweetness
(映画「1,2,3 Rhapsody」より)
RENEE'S LIEFTALLIGHEID
(from "De 1, 2, 3, Rhapsodie")
1965年|3分

2/25 土

12:10-13:40 図面
雪夫人絵図
1950年|88分

14:20-16:00 図面
底抜けもててもてて The Ladies Man
1961年|96分

16:40-18:50 ＋トーク 図面
クリーピー　偽りの隣人
2016年|130分

2/26 日

12:00-13:00 アーカイブ
チセ・アカラーわれらいえをつくる［日本語版］
1974年|57分

14:00-15:10 アーカイブ
〈短編セレクションC〉
建築メディアとしての日本映画

農村住宅改善
1941年|20分

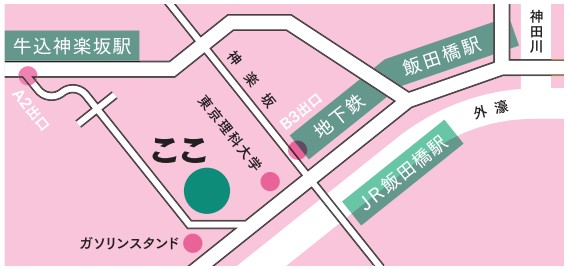
ARCHITECTURES JAPONAISES
(日本の建築)
1937年|13分

コミュニティ・ライフ
1972年|13分

出合いの街 集住体
―パサディナハイツ
1974年|19分

15:50-18:50 ＋トーク 都市
ロサンゼルスによるロサンゼルス
Los Angeles Plays Itself
2003-2014年|169分|本邦字幕付き初公開
※途中休憩5分あり

会場＝アンスティチュ・フランセ東京
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
JR総武線 飯田橋駅西口より徒歩7分
地下鉄（有楽町線・南北線・東西線）飯田橋駅B3出口より徒歩7分
都営地下鉄（大江戸線）牛込神楽坂駅A2出口より徒歩7分



チケット料金 一般	1,500円	（上映のみの回）
	1,800円	（トークありの回）
	4,200円	（1日通し券）
	15,000円	（4日間通し券一般）
チケット料金 学生・障がい者	1,200円	（上映のみの回）
	1,500円	（トークありの回）
	3,300円	（1日通し券）
	12,000円	（4日間通し券一般）

※入場時に学生証・障がい者手帳をご提示ください。
※オープニングイベントは一般1,500円、学生・障がい者1,200円です。

オンライン販売取り扱い＝Peatix 下記QRコードよりお求めいただけます。
販売開始＝2023年1月23日（月）正午
※上映当日会場窓口にてチケットを若干数販売します。
入場方法＝全席自由席、各回入れ替え制、開場は開映15分前
※チケットのQRコードのスマホ画面、または印刷されたものをご提示ください。※各回の開映後の入場はできません。

お問い合わせ＝ 建築映画館実行委員会
info@architectureincinema.com
ウェブサイト＝ architectureincinema.com
Twitter＝ @KenchikuEigakan

詳細はこちら

新型コロナウイルス感染症対策 〇国や都の感染症対策方針に則り、安全な運営を心がけます。〇発熱や咳などの症状がある方はご来場をお控えください。〇マスク着用、検温、手指消毒へのご協力をお願いいたします。

建築映画館 2023

Architecture Film Festival 2023

オープニングイベント 「現代建築映像にまつわる対話」(90分)

2/23 thu 14:40

建築と映像が互いに干渉し合う「建築映像」という領域について、現代を生きる建築映像作家らの作品上映を交えながら、建築家とのトークショーを開催。

主催＝建築映画館実行委員会　**助成**＝公益財団法人 窓研究所

協力=国立映画アーカイブ　合同会社ガラージュ

企画・運営＝瀬尾憲司、小田切駿、渡辺瑞帆　**プログラム統括**＝瀬尾憲司、稲垣晴夏

プログラマー＝成定由香沙、星遼太朗　**渉外・上映素材制作**＝稲垣晴夏

宣伝＝吉田夏生　**英語協力**＝松原悠也　**グラフィックデザイン**＝鈴木哲生

ウェブサイト＝石井宏樹　**ブックレット編集・校正**＝平井祐一　**模型**＝ZOUZUO MODEL

テーマ 1 構造

構造映画とは、ショット構成や物質的な支持体であるメディア（フィルムやビデオテープ）など、映画を成立させるための構造それ自体を主題とした映画を指す言葉である。これらの構造への操作によって喚起させられる空間体験が、建築と密接に関わる作品を上映する。

11 x 14

2/23 thu 16:50

1977年|81分　**監督** ジェームス・ベニング／デジタル上映／**映像提供** Arsenal - Institut für Film und Videokunst e.V.

Courtesty: James Benning, Arsenal - Institut für Film und Videokunst e.V.

「構造映画」の余波の中で製作された、ジェームス・ベニングによる初の長編映画。アメリカ郊外を捉えた65の静的なショットで構成されている。物語を超えて構図・色・テクスチャ・画面の内外の関係を映し出し、映画を見る側に自発的な空間への注視をうながす。

〈短編セレクションA〉マイケル・スノウ作品集（計56分）

2/23 thu 19:00

Courtesy of Canadian Filmmakers Distribution Centre

マイケル・スノウによる2000年以降のビデオ作品群。空間に対して複数の時間が重なり並行していく『WVLNT』『SSHTOORRTY』、配置された物や人物への画像変形処理によって空間性が変化する『The Living Room』など、映像的な操作によって空間を顕在化させる3作品を上映する。

WVLNT（Wavelength For Those Who Don't Have The Time）

2003年|15分　**監督** マイケル・スノウ／デジタル上映

SSHTOORRTY

2005年|20分|ペルシャ語　**監督** マイケル・スノウ／デジタル上映／英語字幕付き

The Living Room

2000年|21分　**監督** マイケル・スノウ／デジタル上映

テーマ 2 建築と人物

ある特定の人物がその映画に関わっていることが大きな意味をもつ映画を取り上げる。ここで言う人物とは、映像を撮った人物の場合もあれば、映像に映る人物の場合もある。建築的な言葉でいえば、施主である場合もあれば、利用者である場合も、もしくは設計者である場合もある。こうした人物と建築の関係を巡って、上映プログラムの選定を行った。

Koolhaas Houselife

2/24 fri 14:00

2017年|58分|仏語　**監督** イラ・ベカ、ルイーズ・ルモワンヌ **建築** ボルドーの家（OMA設計）／デジタル上映

© BÊKA & LEMOINE

OMAの設計によって1998年に竣工した『ボルドーの住宅』を、その掃除をする家政婦の所作を追いかけることで描き出した作品。世界で活躍する建築映画作家ベカ&ルモワンヌの処女作にして傑作。

〈短編セレクションB〉近現代建築と運動（計51分）

2/24 fri 17:50

上映＋トーク

© Hans Werlemann + Claudi Cornaz

マン・レイが住宅建築を舞台に製作した映像や、ル・コルビュジェによるモダニズム建築のプロパガンダ的映像作品、本邦初公開となるOMA設計の『ヴィラ・ダラヴァ』竣工直後の映像作品など、建築家の設計による建築物を撮影対象とした映像作品を中心に、「運動」という共通のテーマのもと上映を行う。

サイコロ城の秘密 Les Mystères du Château de Dé

1929年|26分|仏語　**監督** マン・レイ **出演** マン・レイ、ジャック＝アンドレ・ボワファール、シャルル・ド・ノアイユ、マリー＝ロール・ド・ノアイユ **建築** ヴィラ・ノアイユ（ロベール・マレ＝ステヴァンス設計）／デジタル上映／英語字幕付き

今日の建築 Architecture d'aujourd'hui

1930年|10分|仏語　**製作・撮影** ピエール・シュナル **出演** ル・コルビュジェ **建築** ガルシェの住宅、サヴォワ邸、輝く都市（ル・コルビュジェ設計）／デジタル上映／日本語字幕付き

Silent Witness

1992年|12分|本邦初公開　**撮影・編集** クラウディ・コルナース **編集** ハンス・ヴェールマン **音楽** ビート・コルナース **建築** ヴィラ・ダラヴァ（OMA設計）／デジタル上映

Renee's Sweetness（映画『1,2,3 Rhapsody』より）

RENEE'S LIEFTALLIGHEID（from "De 1, 2, 3, Rhapsodie"）

1965年|3分|蘭語　**監督・脚本・撮影・音楽・出演** 1,2,3 グループ（レネ・ダルダー、レム・コールハース、ヤン・デ・ボン、キース・メイヤーリング、フラン・ブロメット）／デジタル上映／英語字幕付き

テーマ 3 図面

映画を分析・批評する目的で、映像の情報をもとに図面（主に平面図）を描き起こす方法が存在する。図面というフォーマットにより、映画に一人称ではない視点が与えられ、俯瞰的な議論の下地となる平面が生まれる。そうした映画の図面分析を通して、映画と建築の関係性を再考しうる作品を上映する。

雪夫人絵図 *2/25 sat 12:10*

1950年|88分|日本語 新東宝・瀧村プロダクション **監督** 溝口健二 **脚本** 依田義賢、舟橋和郎 **美術** 水谷浩 **出演** 木暮実千代、上原謙、柳永二郎、久我美子 **建築** 起雲閣（清水組［大友弘］設計） 35mmフィルム上映／国立映画アーカイブ所蔵作品

©国際放映

熱海の名邸・起雲閣で撮影された、旧華族の夫人、放蕩夫、夫人を慕う男が織りなすメロドラマ。後に『西鶴一代女』（1952年）で国際的評価を高めていく溝口健二の監督作。物語の流れに沿って効果的に建築の部分を映し出す手つきに着目し、再評価を試みる。美術監督・水谷浩が手がけるセットにも注目。

底抜けもててもてて The Ladies Man *2/25 sat 14:20*

1961年|96分|英語 パラマウント **監督・製作・脚本・出演** ジェリー・ルイス **脚本** ビル・リッチモンド **美術** ハル・ペレイラ、ロス・ベラー／デジタル上映／日本語字幕付き

Images Courtesy of Park Circus/Paramount

ジャン＝リュック・ゴダールにも影響を与えたスラップスティックの名手ジェリー・ルイスによるコメディ映画。4階建ての女子寮のセットを断面から捉えた現実の空間では不可能なカメラワークとともに繰り広げられる取り留めのない物語が、セットという建築物によって、ひとつの映画へと繋ぎとめられる。

クリーピー 偽りの隣人 *2/25 sat 16:40*

2016年|130分|日本語 松竹 **監督・脚本** 黒沢清 **脚本** 池田千尋 **美術** 安宅紀史 **出演** 西島秀俊、竹内結子、東出昌大、香川照之／デジタル上映

上映＋トーク

© 2016「クリーピー」製作委員会

建築物の配置がストーリー上の重要な要素として登場するサスペンススリラー。撮影時も現場の俯瞰図のなかに役者の動線を描き込みながら演出をつけていくという黒沢清。その監督作品のなかでも、空間構成と物語の構成が互いを利用しながら展開していく本作を、改めて図面とともに見直したい。

テーマ 4 アーカイブ

映画の保存・継承は、映画フィルムのなかに遺されてきたさまざまな建築空間を、時間や場所を超えて体験することを可能にしてくれる。スクリーンを通して、映画によって建築を記録／伝達するこれまでの試行をその黎明期から見つめ直したい。

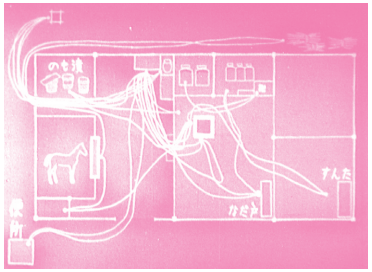
チセ・アカラ―われらいえをつくる［日本語版］ *2/26 sun 12:00*

1974年|57分|日本語・アイヌ語 民俗文化映像研究所・グループ現代 **監督** 姫田忠義 **製作** 小泉修吉 他／デジタル上映／**映像提供** グループ現代

© GROUP GENDAI FILMS CO., LTD.

消えてしまったアイヌの伝統的な家づくりとその文化的背景を伝えるため、アイヌ文化研究者の萱野茂がアイヌの青年たちと2軒の民家をつくる様子をとらえた貴重なドキュメンタリー。宮本常一に師事し日本各地の消えゆく生活文化を記録し続けた姫田忠義が監督を務めた。日本語版に加えて英語版とアイヌ語版が存在する。

〈短編セレクションC〉建築メディアとしての日本映画（計65分） *2/26 sun 14:00*



© 一般社団法人映画演劇文化協会

建築が映画の主題として扱われた日本映画4作品を紹介。リサーチ（『農村住宅改善』）や設計・プレゼンテーション（『コミュニティ・ライフ』『出合いの街』）、広報（『ARCHITECTURES JAPONAISES』）といった建築をつくる過程を巡るさまざまな行為とその映像表現の多彩さに着目したい。

農村住宅改善

1941年|20分|日本語 東宝映画文化映画部 **監督** 野田真吉 **製作** 加納竜一 **撮影** 福田三郎 **編集** 山田耕造 **音楽** 服部良一 **監修** 竹内芳太郎 **指導** 今和次郎／デジタル上映／**映像提供** 東宝ステラ日映アーカイブ

ARCHITECTURES JAPONAISES（日本の建築）

1937年|13分|仏語 国際文化振興会 **撮影** 三村明 **音楽** 松平頼則 **建築** 東京中央郵便局（吉田鉄郎設計）、吉川邸（堀口捨己設計）他／デジタル上映／仏語字幕付き／**映像提供** 東宝ステラ日映アーカイブ

コミュニティ・ライフ

1972年|13分|日本語 理研映画 **監督・脚本** 松本俊夫 **撮影** 大河内基夫、堀江毅 **音楽** 一柳慧 **出演** 菊竹清訓 高島陽 **監修** 菊竹清訓建築設計事務所 **建築** パサディナハイツ（菊竹清訓建築設計事務所設計） 35mmフィルム上映／国立映画アーカイブ所蔵作品

出合いの街 集住体―パサディナハイツ

1974年|19分|日本語 松本プロダクション **製作・演出・脚本** 松本俊夫 **脚本** 古賀剛 **撮影** 石井尋成 **編集** 岩佐寿枝 **音楽** 一柳慧 **監修** 菊竹清訓建築設計事務所 **建築** パサディナハイツ（菊竹清訓建築設計事務所設計）／デジタル上映 **映像提供** NPO法人戦後映像芸術アーカイブ

テーマ 5 都市

人間の認識が及ばないほどに、概念や認識が無数に折り重なった都市の全体像を捉える方法のひとつとして映画がある。映画は自らが生み出した都市像を人びとに伝え、現実の都市へと影響を及ぼすことさえある。ここでは映画をつくる行為を通じて現実の都市へと接続する2作品を選出した。

プロパティ Property *2/24 fri 15:40*

1979年|88分|英語|本邦初公開

監督・脚本・製作 ペニー・アレン **撮影** エリック・エドワーズ **録音** ガス・ヴァン・サント、**出演** ウォルト・カーティス、ローラ・デスモンド、コーキー・ハバート／デジタル上映／日本語字幕付き（字幕翻訳 上條葉月）

1970年代のオレゴン州ポートランドで、急激に進むジェントリフィケーションから生活を守ろうとした住民たちを描く地域映画。アメリカの70年代インディペンデント映画シーンを切り拓いた女性監督ペニー・アレンによる、都市計画に対するマニフェスト的作品。その後のポートランドの変化と併せて考察したい。

ロサンゼルスによるロサンゼルス Los Angeles Plays Itself *2/26 sun 15:50*

上映＋トーク

2003-2014年|169分|英語|本邦字幕付き初公開

監督・調査・テキスト・製作 トム・アンダーセン **撮影** デボラ・ストラットマン **編集** ユ・スンヒョン／デジタル上映／日本語字幕付き（字幕翻訳 大石盛寛）

courtesy of Cinema Guild

数々の作品の舞台となってきた都市・ロサンゼルス。200本以上の映画フッテー ジを用いて、ロサンゼルスという都市が映画の中でどのような背景や被写体であったかを分析した映画エッセイ。映画のサイレント期から現代まで約100年にわたり、映画と都市が互いに影響を受けながら発展してきたことを明らかにする。

※分数は当日の上映時間と若干異なる場合があります。